

コード No. 17-NPF-002

提出日：平成 29 年 10 月 11 日

平成 29 年度「第 8 回東アジア市民社会フォーラム開催」報告書

公益財団法人公益法人協会 白石喜春

1. プログラムの目的

<東アジア市民社会フォーラムの開催目的>

- 1) 市民社会における日中韓の相互理解と融和通して、東アジア地域の平和と繁栄の実現を目指す。
- 2) 東アジア地域の市民社会セクターが抱える様々な問題や課題を共有し、解決への道筋を探る。
- 3) 安定した市民社会の実現に向け、日中韓の相互協力で市民社会セクターの制度環境の改善を図る。

<第 8 回フォーラムの目標>

自然災害の被害に遭った地域が必ず直面するコミュニティ再生とまちづくり、この課題解決に対する市民社会組織への期待は年々増してきている。被災地におけるコミュニティ再生の効果的な取り組みや先進事例を 3 か国で共有し、被災地復興の分野で市民社会組織の能力向上を図る。

2. 主な活動内容・スケジュール

日 程	内 容
8月23日(水)	16:30 歴史地区保全(まちづくり)団体訪問 郭大基(Kwak, Dae-Ki)教授が慶州歴史保護地区を案内 18:30 歓迎夕食会
24日(木)	第8回東アジア市民社会フォーラム「被災地におけるコミュニティ再生とまちづくり」開催(定員150名) 会場: The K Hotel Gyeongju 新館3階花郎B室 09:30 レジストレーション 10:30 開会式 Jang, Sukjoon / 韓国ボランティアフォーラム会長 太田達男 / (公財)公益法人協会会長 Haoming Huang / 中国国際民間組織協力促進会理事長(Video Message) 11:00 基調講演 日本(40分): 被災地におけるコミュニティ再生とまちづくり

	<p style="text-align: center;">～住民と寄り添う支援を考える～</p> <p style="text-align: center;">宮定章 / まち・コミュニケーション代表理事</p> <p>中国 (25分) : コミュニティ再生活動に参画する 龙江文(Long Jiangwen) / 中国国際民間組織協力促進会常務理事</p> <p>韓国 (25分) : 新たな地域共同体の復元及びボランティアまちづくり Choi, Yang-sik / 慶州市長</p> <p>12:30 昼 食</p> <p>13:30 問題提起「新たな地域の共同再生及びまちづくりボランティア」 セッションⅠ 日本</p> <p>(13:30-13:55) : 社会変革の為のチャレンジ～紛争地の人道支援からまちづくりまで～ 大西健丞 / Civic Force 代表理事</p> <p>(13:55-14:20) : 支援団体は震災後のコミュニティ形成過程にどのように貢献したか 中尾公一 / 県立広島大学、東北大学博士研究員</p> <p>(14:20-14:45) : 市民社会とコミュニティ～出会いと共振による地域づくり～ 西川 正 / ハンズオン埼玉理事</p> <p>14:45 休 憩</p> <p>15:00 問題提起「新たな地域の共同再生及びまちづくりボランティア」 セッションⅡ 韓国</p> <p>(15:00-15:25) : 災難災害被害地域におけるボランティア協業事例 ボランティアセンターを中心に～ Oh, Changsup / 韓国中央ボランティアセンター長</p> <p>(15:25-15:50) : 社会的連携を通じた地域共同体災難災害時復興ボランティアネットワーク事例を中心に Choi, Hyun-soo / 安山市社会的経済センター長</p> <p>(15:50-16:15) : 現代社会におけるコミュニティ復元とプラットフォーム使用～事例を通じた共同体復元の理論的含意 Lee, In-woo / 京畿道共有市場経済政策補佐官</p> <p>16:15 質疑応答</p> <p>17:00 挨拶 山岡義典 / (公財)助成財団センター理事長 Kim, Sungjoon / 韓国ボランティア学会会長</p> <p>18:00 送別会</p> <p>20:00 地域文化探訪 (東宮と月址)</p>
<p>25日(金)</p>	<p>第8回東アジア市民社会フォーラム開催 (定員 100名)</p> <p>テーマ: 被災地におけるコミュニティ再生とまちづくり</p> <p>会 場: The K Hotel Gyeongju 新館3階花郎B室</p> <p>08:30 東アジア市民社会ボランティア専門家Talk Concert</p> <p>テーマ① Work-仕事の内容 テーマ② Learn-どこで学び、どう教育するか テーマ③ Life-東アジアで非営利活動家として生きていく テーマ④ Transmission-今後の変化と希望</p> <p>10:30 閉会式</p> <p>11:00 地域文化探訪(慶州良洞村, 瞻星臺, 雁鴨池等)</p>

3. 助成を受けた活動の報告

<第8回東アジア市民社会フォーラム(8月24日~25日)>

8月24日(木)に第8回東アジア市民社会フォーラムが、韓国・慶州市内にある The K Hotel (写真1) で開催され、市民社会、研究機関、地方行政、企業等から150名の参加があった。

開会挨拶では、韓国側主催団体を代表し韓国ボランティアフォーラム(KFV)会長の Jang Sukjoon 氏、日本側主催団体を代表し公益法人協会(JACO)会長の太田達男氏(写真2)、中国側主催団体を代表し中国国際民間組織協力促進会(CANGO)理事長の Haoming Huang 氏からビデオによる挨拶があり、その後、各国代表の記念撮影が行われた(写真3)。



写真1 第8回フォーラムの会場



写真2 会場内の様子(太田会長の挨拶)(8月24日)

その後の基調講演では、日本から宮定章氏(まち・コミュニケーション代表理事)が登壇し、阪神淡路大震災や東日本大震災での活動経験から、被災者の為ではなく、地域やコミュニティの視点で動くことや、被災者を応援するのではなく、住民主体の気持ちに寄り添うことの重要性が指摘され、防災にあたっては、支援団体は日頃から市民と信頼関係を持つことで、発災時に混乱なく支援活動が実現されるとした。

中国からは、Long Jiangwen 氏（中国国際民間組織協力促進会常務理事）から基調講演があり、冒頭で「政治的な緊張の中でも良好な関係が維持できる我々3か国の関係こそ、本当の友情。来年も中国で再会したい」と挨拶があった。続いて、CANGO が実施する、被災地復興支援における心理治療や生産活動支援の有効性、ジェンダー問題への取り組み、復興過程におけるマルチステークホルダーによる連携、防災のための自然環境の保護管理などが紹介された。

韓国からは、Choi, Yang-sik 氏（慶州市長）による基調講演があり、慶州大地震など韓国国内で起こった大災害の経験を通して得られた教訓として、①コントロール機能の確保、②現場やケース毎の行動マニュアル、③専門団体、専門家のプール制、④防災の重要性が挙げられた。最後に「今後も経験豊かな各国から学んでいきたい」と締めくくった。



写真3 各国代表者による記念撮影(8月24日)



写真4 宮定氏による基調講演(8月24日)

午後からの問題提起では（写真5）、日本側からは大西健丞氏（Civic Force 代表理事）が、救援から復興まで一貫性のある支援プロセスをプラットフォームとして確立し、国境を越えたエリアで活動を展開していることが報告された。復興からコミュニティ再生までは中尾公一氏（県立広島大学、東北大学博士研究員）が担当し、コミュニティ再生に欠かせない住民組織の機能、つまり①規範形成機能、②紛争解決機能、③対外関係調整機能、④住民の役割・参画創出機能、⑤豊かさ創出機能が紹介された。続いて、コミュニティ再生後のまちづくりについては西川 正氏（ハンズオン埼玉理事）から報告があり、現在の社会について「お客様化し、孤立する暮らし（サービスを作りすぎると人は孤立する）」とし、また、コミュニティ運営には「正しいより、楽しいを重視（遊び心と共感が仲間を呼び、活動を活性化させる）」が重要と指摘した。

韓国側からの問題提起は、Oh, Changsup 氏（韓国中央ボランティアセンター長）が登壇し、もともと官民交流の機会がなく、被災地でのコミュニティ再生に取り組む時に行政との擦れ違いが多々みられたことが報告された。また、コミュニティの活性化を実現させるために、住民主体でコミュニティ造成プラットフォームを商店街に設置した経験が共有され、今後は市場経済だけでは孤立すると指摘した。続いて Choi, Hyun-soo 氏（安山市社会的経済センター長）からは、県レベルで子供に共働教育を実施、自分の役割を考えさせるなどしており、その結果、学生主導、住民主導の協同組合が各地で増えつつあり、現在、それらは分野を超えた連携が進展中とのこと。Lee, In-woo 氏（京畿道共有市場経済政策補佐官）からは、「コミュニティ再生事業で身構えてたら何もできない。未来を見るのも評価するのも、何事にも楽観性が必要」とのことだった。



写真5 パネルセッションの様子(8月24日)

閉会にあたっては、日本側実行委員会の山岡義典委員長（助成財団センター理事長）及び韓国側実行委員会の Kim, Sungjoon 委員長（韓国ボランティア学会会長）から挨拶があった。その後、同会場で送別会が開催された。

8月25日(金)、午前中はボランティア専門家Talk Concertが開催され、市民社会から約100人が参加した(写真6)。日中参加者ら全員と韓国側参加者の代表者らがセンターテーブル着席し、それぞれが属する団体の概要、社会課題に対する取り組みなどが紹介された。



写真6 TALK CONCERT セッション(8月25日)

<現地視察>

8月23日(水)に実施した現地視察では、郭大基(Kwak, Dae-Ki)教授の案内のもと、日本統治時代に慶州博物館館長モロガ・ヒデオ氏の自宅であったブックカフェ“塩星”を訪問し(写真7)、慶州市内の歴史遺産を活用したまちづくりについての講義を受けた。

その後、朝鮮王朝第1代王の李成桂の肖像画を仕えた場所「集慶殿(jipkyungjeon)」、正祖の字が石に刻まれた「集慶殿旧基(jipkyungjeonkugi)」、集慶殿の参拝客が下馬する場所「下馬碑(hamabi)」、日本統治時代の慶州博物館で、1926年に皇室の高松宮が植えたモミがある「慶州文化院」(写真8)、日本統治時代に慶州で建てられた3つの寺本願寺のうちのひとつ「西慶寺(seokyungsa) (現在はパンソリ「教育施設」)」、日本統治時代に山口医院だった「花郎修練院」、7世紀中頃に築造された東洋に現存する最も古い天文台「瞻星台」を視察した。

8月25日(金)の現地視察では、ユネスコに登録されている世界遺産「慶州良洞村」を訪問し(写真9)、世界遺産に指定されたコミュニティの実態について学んだ。

※詳細は、「公益法人」誌10月号に掲載されている第8回東アジア市民社会フォーラム参加報告の記事をご参照ください。



写真7 ブックカフェ“塩星”での講義



写真8 慶州文化院



写真9 世界遺産「慶州良洞村」

4. 活動の成果

日中韓は隣国という地理的条件にあるものの、政治的な問題を多く孕んでいる故、これら3か国の関係性は決して強いとは言えない。第8回東アジア市民社会フォーラムの開催に当たっては、中韓のTHAAD問題が表面化し、中国側からの参加者がゼロという事態となったが、日本側からの粘り強い説得により中国からの代表者の参加が叶い、形式的には3か国によるフォーラムの開催が実現できた。

今回のフォーラムでは、政治問題の壁を越えて、市民社会セクターのレベルで3か国は良好な関係を継続していくと確認し合い、中国側主催団体の代表者からも「来年は第9回フォーラムを中国で開催し、日韓の参加を歓迎する」との挨拶をいただいた。

第8回フォーラムの内容については、非常に濃い議論ができたのではないかとと思われるが、このこと以上に日中韓の平和的な関係性の継続が第8回フォーラムにおいて約束されたことは、極めて大きな成果であったと言える。

5. 今後の課題

8回目を迎えた今回のフォーラム開催にあたり、前述のとおり THAAD 問題の影響で中国抜きでのフォーラムが開催されようとしていた。尖閣諸島の問題を抱えていた2012年の中国大会開催時も、フォーラム自体の開催が危ぶまれる事態となったことがあり、その時は最悪な事態を回避できたものの、政治動向に左右されやすい中国との国際会議の共同開催は、非常にリスクで予断を許さない状況である。

しかし、このような問題を孕んでいるからこそ、東アジアの平和と安定した社会の実現に向けた、東アジア市民社会フォーラムなどの日中韓共同主催による平和の祭典の継続開催が必要であると考えられる。

それぞれが政治的な問題を抱えながらも、市民社会における日中韓の安定した友好関係を継続させていくことが重要であるという考えのもと、来年も粘り強く中国大会開催に向けて中国側主催団体に働き掛けていきたい。

以上